

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 大川 丸尾 田村 入江

2. 山城／ルート 雪彦山 地蔵岳東稜ルート

3. 交通手段 車

4. 行動記録

入山日 2017年 7月 2日 下山日 同日

8:00 東屋発→8:20 地蔵岳東稜取付き着→8:45 マルチピッチ登攀開始（大テラスまで 2p、下り懸垂下降）→11:10 地蔵岳東稜取付き着→11:20 地蔵岳東稜取付きより 2回目の登攀開始（3p）→12:45 チムニー取付き着→懸垂下降→14:45 地蔵岳東稜取付き着→15:00 出発→15:20 東屋着
雪彦温泉へ立ち寄りミーティング後、帰神

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

岩が濡れていたため少し乾くのを待ち、様子見でまずは大テラスまで 2p 登攀する。

その後岩が乾いてきたので、再度地蔵岳山頂を目指し登攀を開始するも 4p 目（チムニー）取付きに到着すると突然激しい雨が降り出し、長時間の雷雨のなか懸垂下降にて撤退する。

また 4 名でダブルロープ 3 本の登攀・下降となったため時間を要した。

b) 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか？

発生した場合、具体的に記す

① I がダブルロープを忘れたため 4 人グループでの行動となり時間がかかってしまった。

② 懸垂下降での撤退中、1p と 2p の間のテラスで、T が下降器を取り外す際に落としてしまう。残り 1p を T と I はローアダウンにて下降する。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

① →計画書の装備表に持参装備を必ず記入する。

→忘れ物のないよう再確認を行う。

② →下降器は手のひらに収めるよう、下に向けて持ち操作する。

→手袋を外して操作を行う。

6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

- ・ 1p と 2p はランニングビレイ点が少なく、最悪 20m 程落下してしまうためリードはより慎重に。
- ・ パーティー編成が 4 人でダブルロープ 3 本の場合は、セカンドとサードがピッチ終了点到着後にリードとラストが同時に行動すると時間短縮となる。
- ・ ヒル全盛期で 3 名が餌食になり、東屋に戻ってきた時も靴の中などたくさんのヒルがいた。
- ・ 激しい雷雨で岩も自分たちもずぶ濡れ状態での撤退。雨で懸垂下降はバックアップが滑りにくいため操作が行いにくく、また足も滑りやすい状態でより慎重が必要。また雨に濡れた岩場は次の支点となる場所が認識しづらくなるため、注意が必要。
- ・ 雨によりアプローチの山道では沢が増水し、行きと全く違う景色になっていた。

[感想]

今回はアクシデントと天候の急変により、さまざまな体験をさせてもらうことができました。システムの再確認に撤退方法、ヒル対策など色々なことを教えていただき、リードも経験することができました。また撤退中は最後まで雨が降り続き、激しい雷雨の最後に空が光った時には、金属類をたくさん身に着けた状態で逃げ場のない岩場にいる状況に、恐怖のあまり神様助けて！と心の中で叫んでいましたが、ベテランの方々の落ち着いた声かけのおかげで、平常心を保って最後まで行動できました。MさんとOさんにはたくさん助けていただき、本当にありがとうございました！



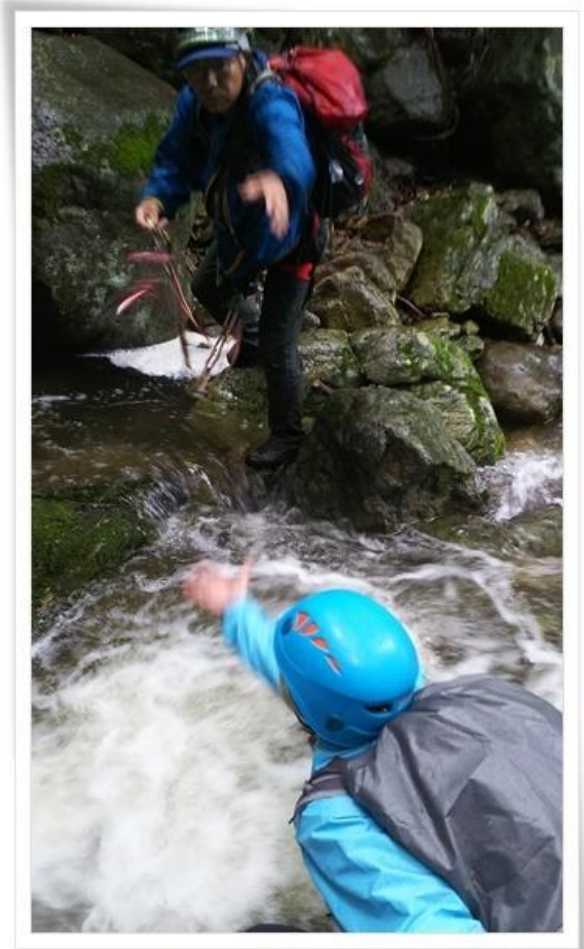
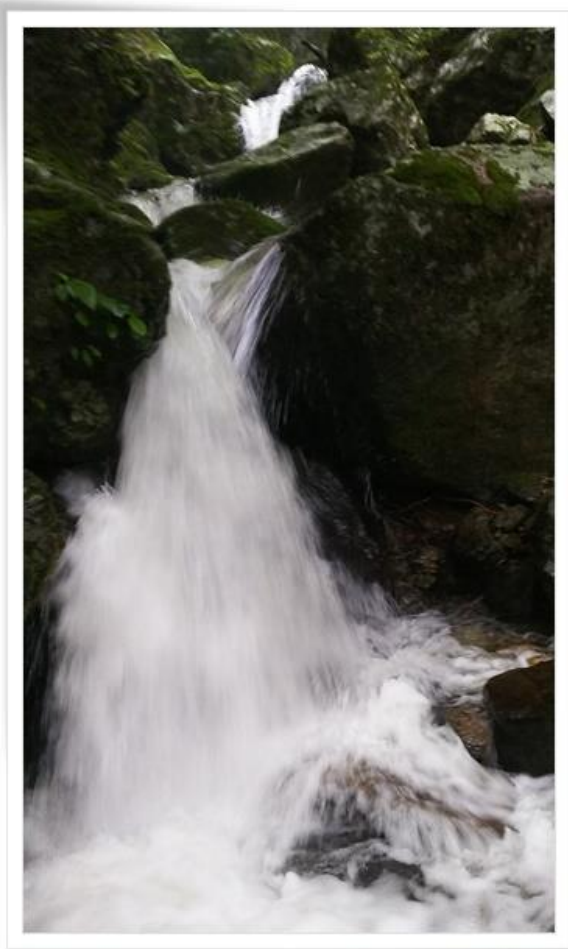
徐々に岩が乾いて青空も見えてきていた



チムニー取付きで激しい雨により撤退開始



雷雨の中でのロープ操作はより大変に



沢が増水し渡渉困難に

報告者氏名 入江真紀

2017年 7月 4日